

# 1. 流域概要編

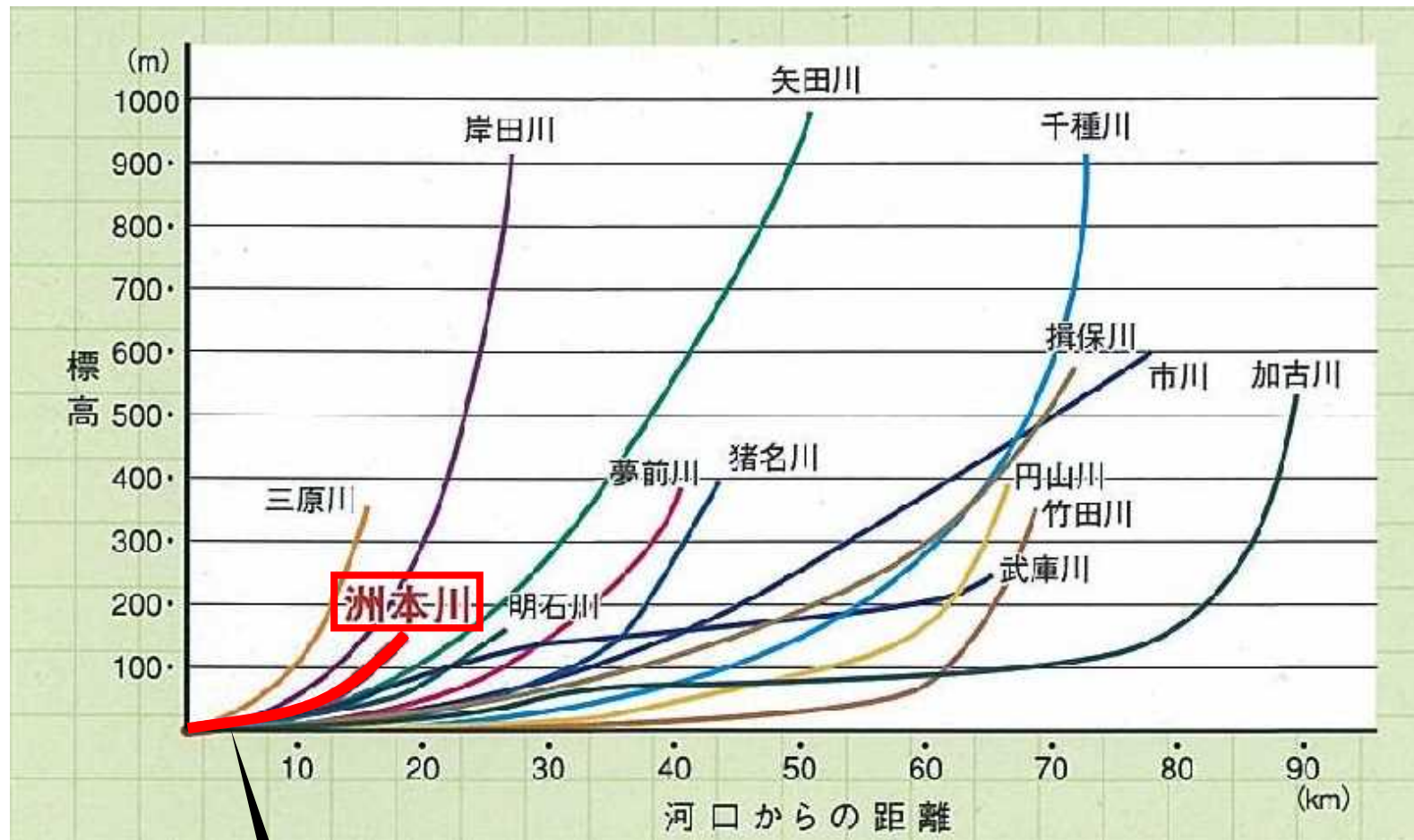
1-1 流域の概要

1-2 自然環境

1-3 社会環境

## ■ 地形

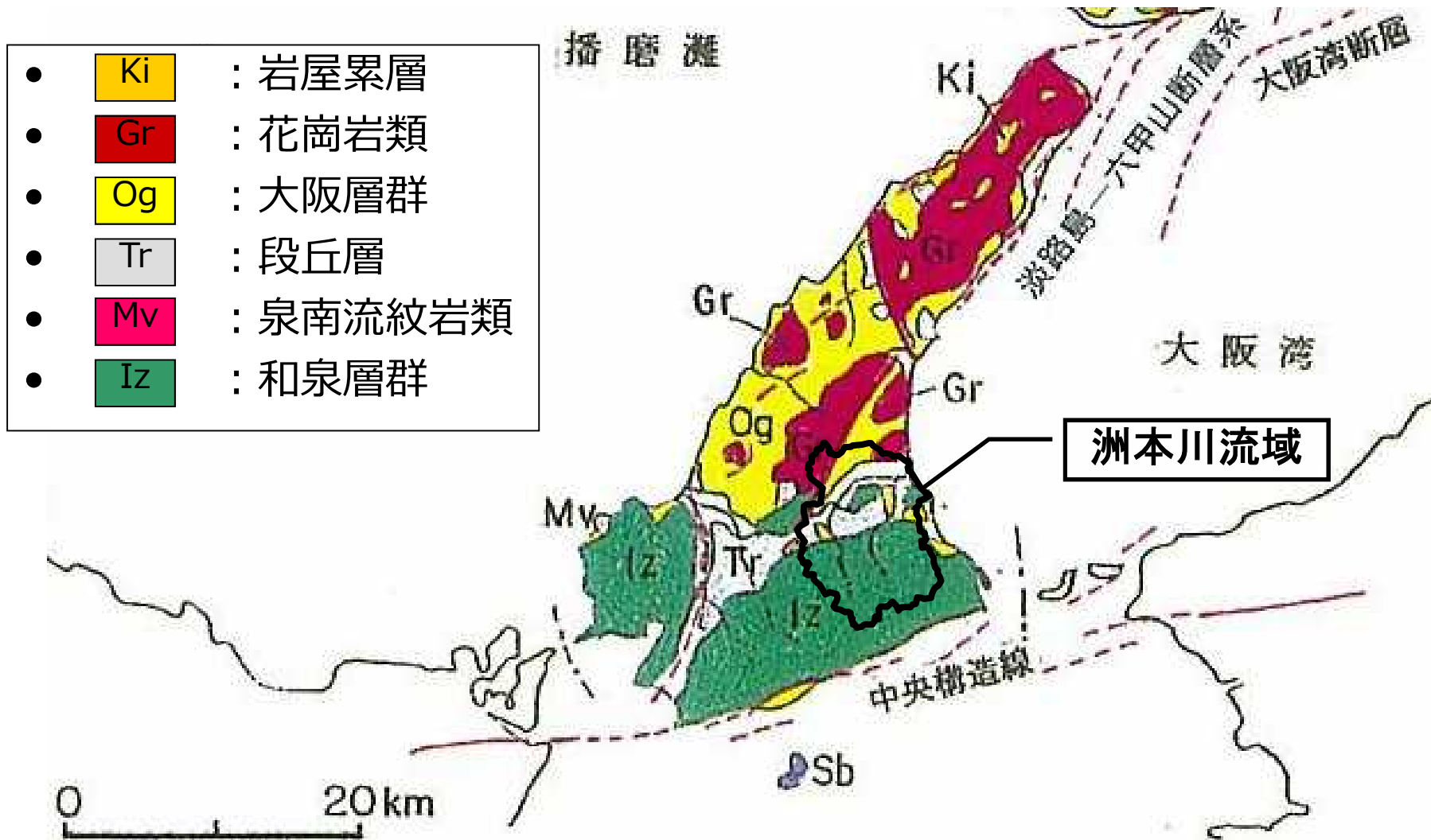
- 洲本川は、河口部、中～下流部の低平部を流れる緩流区間、上流部の山間を流れる急流区間からなる。



洲本川 標高：約150m、河口からの距離：約19km

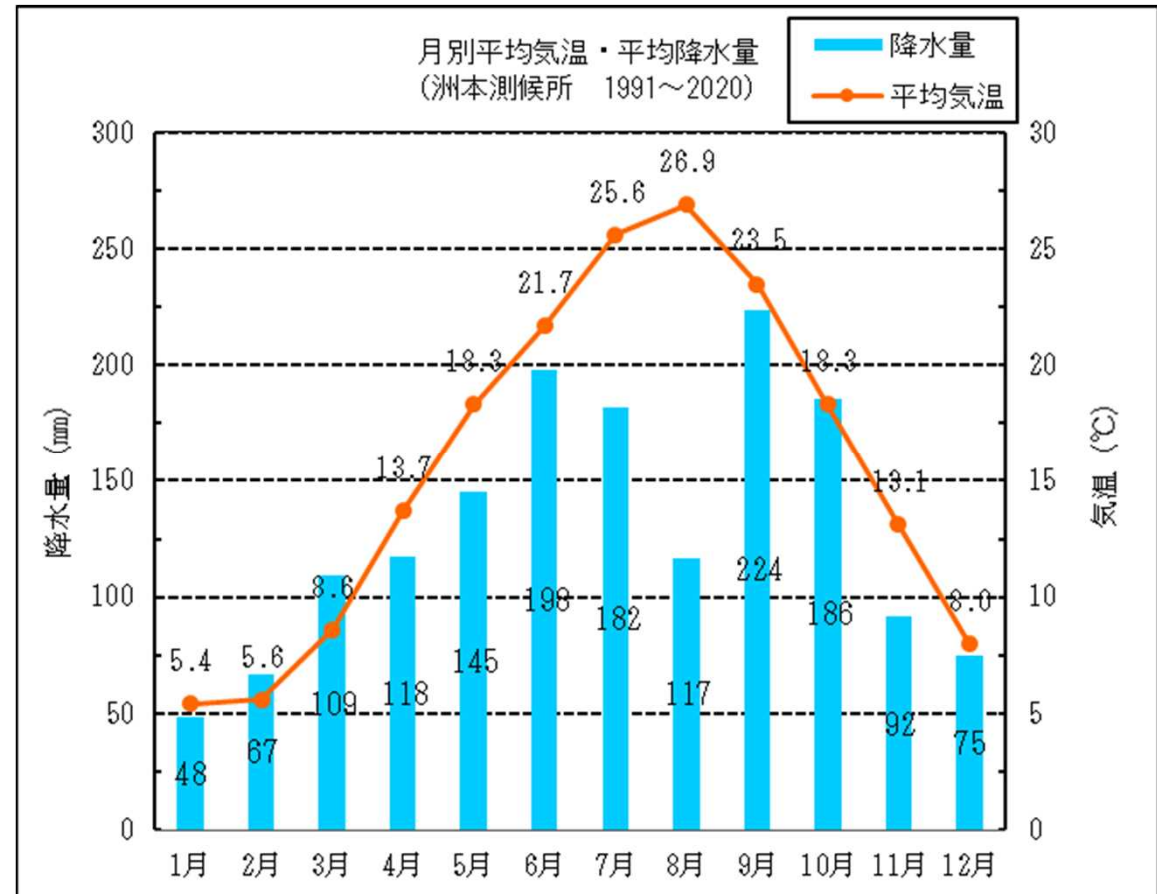
# ■地質

- 洲本川流域の北部は段丘層が主に分布しており、南側は和泉層群が分布している。



# ■ 気候

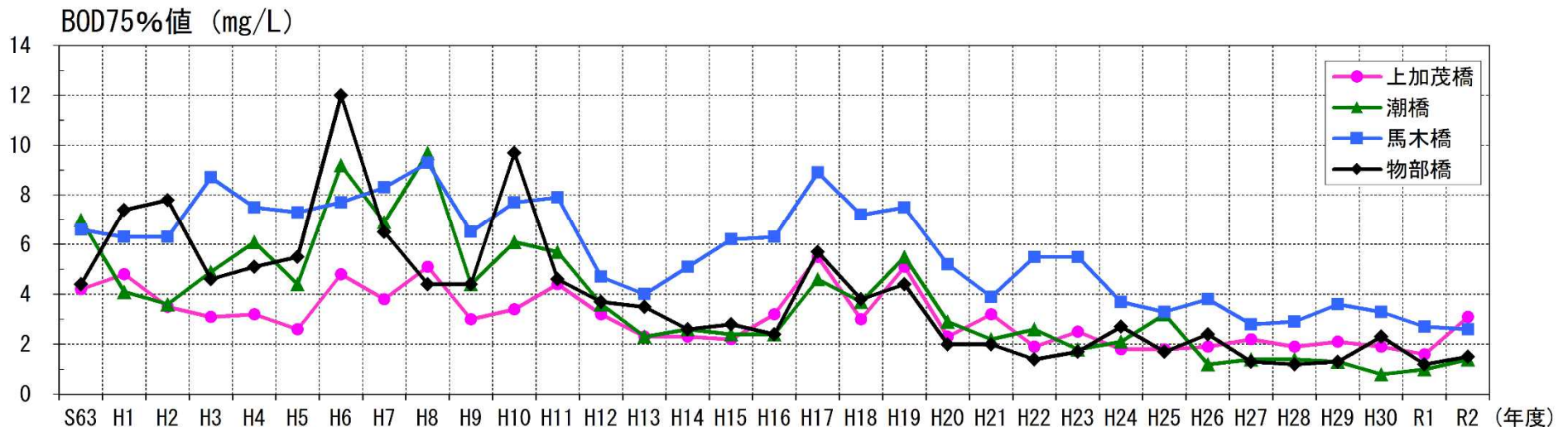
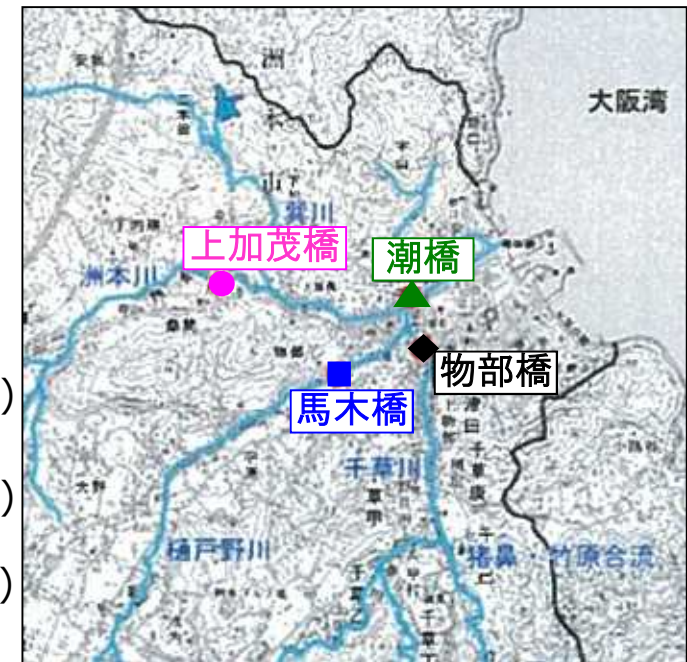
- 流域は、瀬戸内海性気候区に属する。
- 洲本の年間降水量は1,560mm程度。
- 梅雨期の6月、台風期の9月に降水量が多い。
- 平均気温は約15.7℃。



# ■水質

- 近年(平成23年以降)の水質状況 (BOD:生物化学的酸素要求量)は以下のとおりである。

- 洲本川上流の上加茂橋で1.6~3.1mg/L } C類型相当 (5mg/L以下)
  - 洲本川下流の潮橋で0.8~3.2mg/L } B類型相当 (3mg/L以下)
  - 千草川の物部橋で1.2~2.7mg/L } D類型相当 (8mg/L以下)
  - 樋戸野川の馬木橋で2.6~5.5mg/L
- 下水道の整備により、BOD値は減少傾向にある。





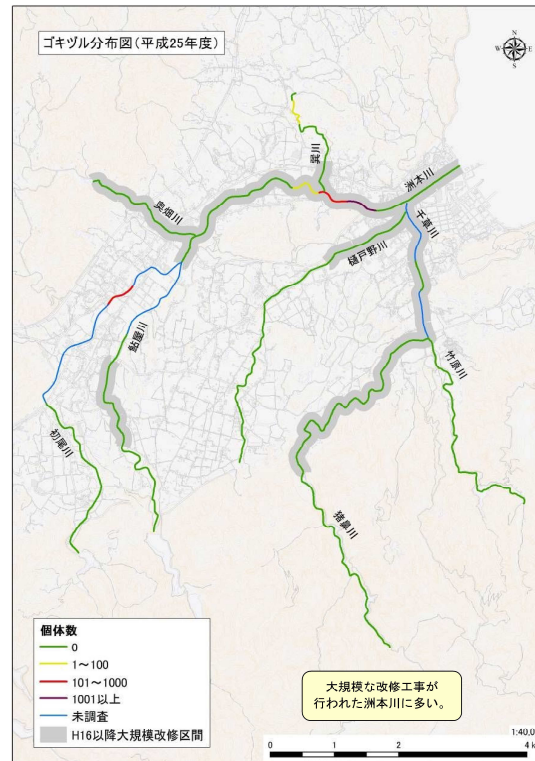
# ■ 洲本川の生物 – 植物 –

- 平成25年度調査で確認された**植生単位**は48群落
- 特定種は**ゴキヅル**、**イソヤマテンツキ**の2種
- 外来種はオオキンケイギク、 オオカナダモ等の15種

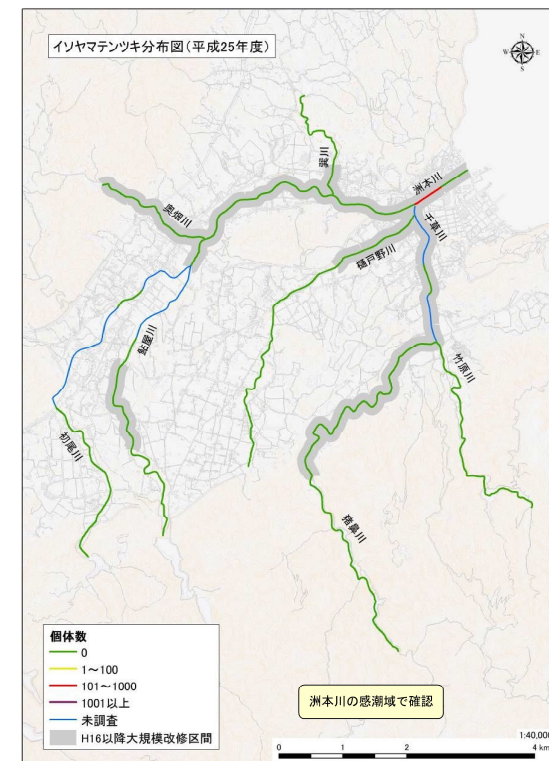
ゴキヅル(特定種)



イソヤマテンツキ(特定種)



ゴキヅルの分布図



イソヤマテンツキの分布図

「(二)洲本川水系洲本川 ひょうごの川・自然環境調査業務報告書 平成26年3月」より

特定種: レッドデータブック等に特定されている絶滅のおそれがある野生生物の種

外来種: 人間の活動に伴って、それまでその生き物が生息していなかった場所に持ち込まれた種。 16

# ■ 洲本川の生物 – 魚類 –

- 平成25年度調査で確認された魚類は48種
- 特定種はドジョウ、メダカ、クロヨシノボリ等の9種
- 外来種はブルーギル、オオクチバスの2種

ドジョウ(特定種)



クロヨシノボリ(特定種)



メダカ(特定種)



オオクチバス(外来種)



魚類の特定種確認地点



# ■ 洲本川の生物 – 底生動物 –

- 平成25年度調査で確認された底生動物は124種
- 特定種はオオタニシ、ヒラテテナガエビ、マメコブシガニ等の9種
- 外来種はアメリカザリガニ等の3種

オオタニシ(特定種)



マメコブシガニ(特定種)



ヒラテテナガエビ(特定種)



アメリカザリガニ(外来種)



底生動物の特定種確認地点



# ■ 洲本川の生物 – 鳥類・哺乳類 –

- 鳥類の確認種数は36種で、特定種は  
ササゴイ、ミサゴ、オオタカ、ハヤブサ、  
カワセミ、ホオアカ等8種

カワセミ(特定種)



- 哺乳類の確認種数は9種で、特定種は  
タヌキ、イノシシ、ニホンジカ等4種

「河川水辺の国勢調査(H8,H13)」より

タヌキ(特定種)



イノシシ(特定種)



ニホンジカ(特定種)

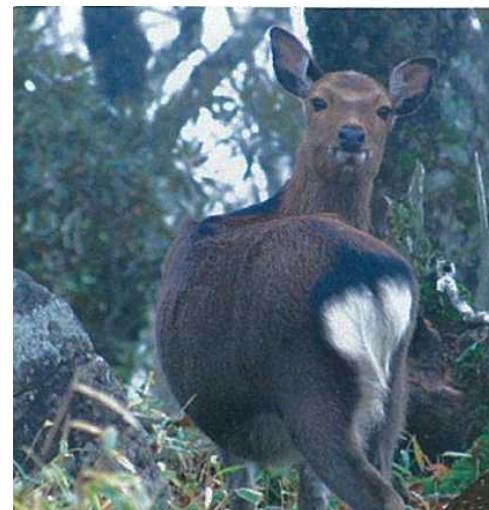


写真:「洲本川のいきもの」より

## ■ 洲本川の生物 – 両生類・爬虫類・陸上昆虫類 –

- 両生類の確認種数は5種で、特定種はイモリ、シュレーゲルアオガエルの2種
- 爬虫類の確認種数は7種で、特定種はいない
- 陸上昆虫類の確認種数は546種で、特定種はワスレナグモ、クロシオキシタバ、グンバイトンボ、ツノカクツツトビケラ等7種
- 竹原川、鮎屋川※等にはゲンジボタルが生息  
※平成20年度調査

「河川水辺の国勢調査(H8,H13)」より

イモリ(特定種)

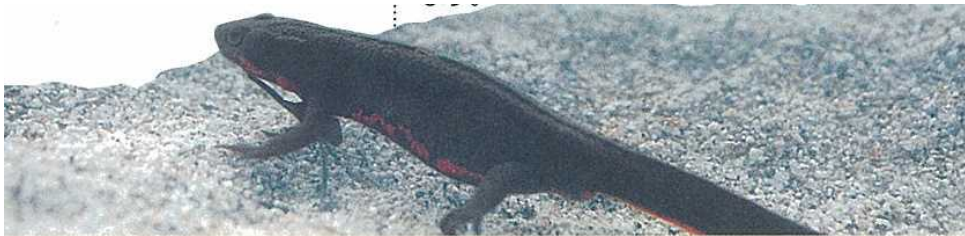


写真:「洲本川のいきもの」より

# 1. 流域概要編

1-1 流域の概要

1-2 自然環境

1-3 社会環境

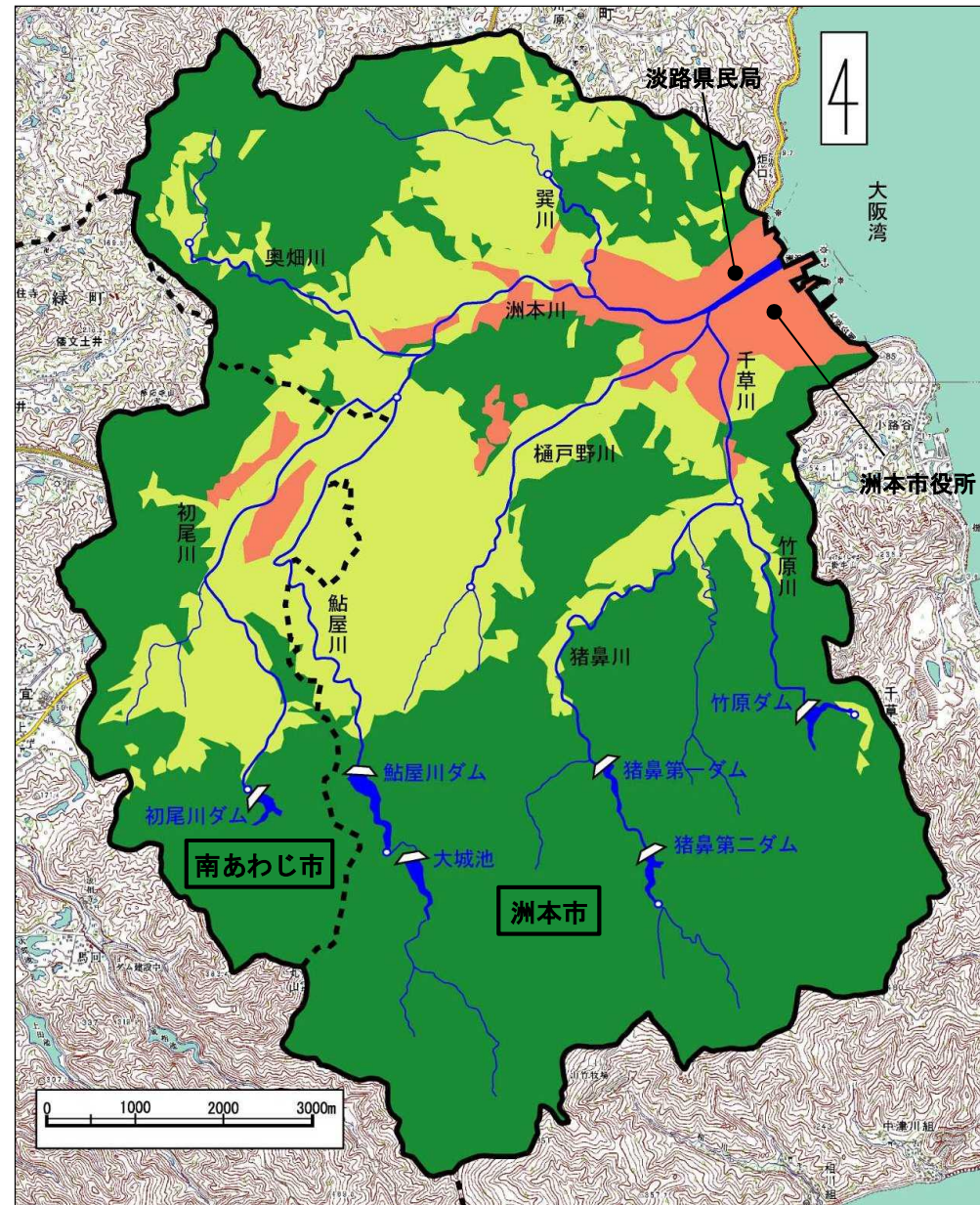


# ■ 土地利用状況

- 流域の大半は山林に占められ、洲本川の下流にのみ商業地や工業地が分布する。

## 洲本川流域の土地利用比率

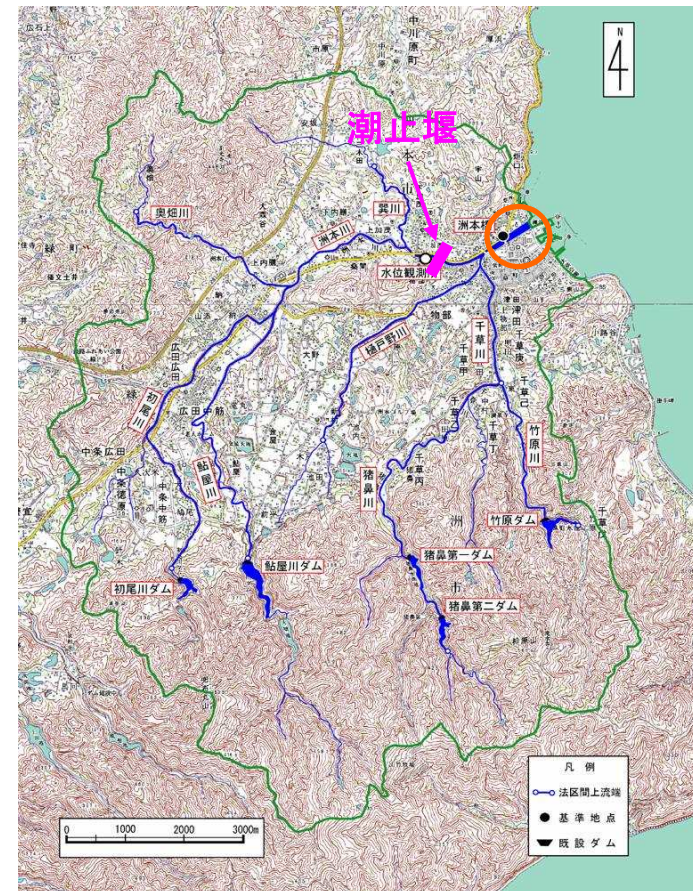
- 市街地 : 8.2%
- 農地 : 21.0%
- 山地 : 70.8%





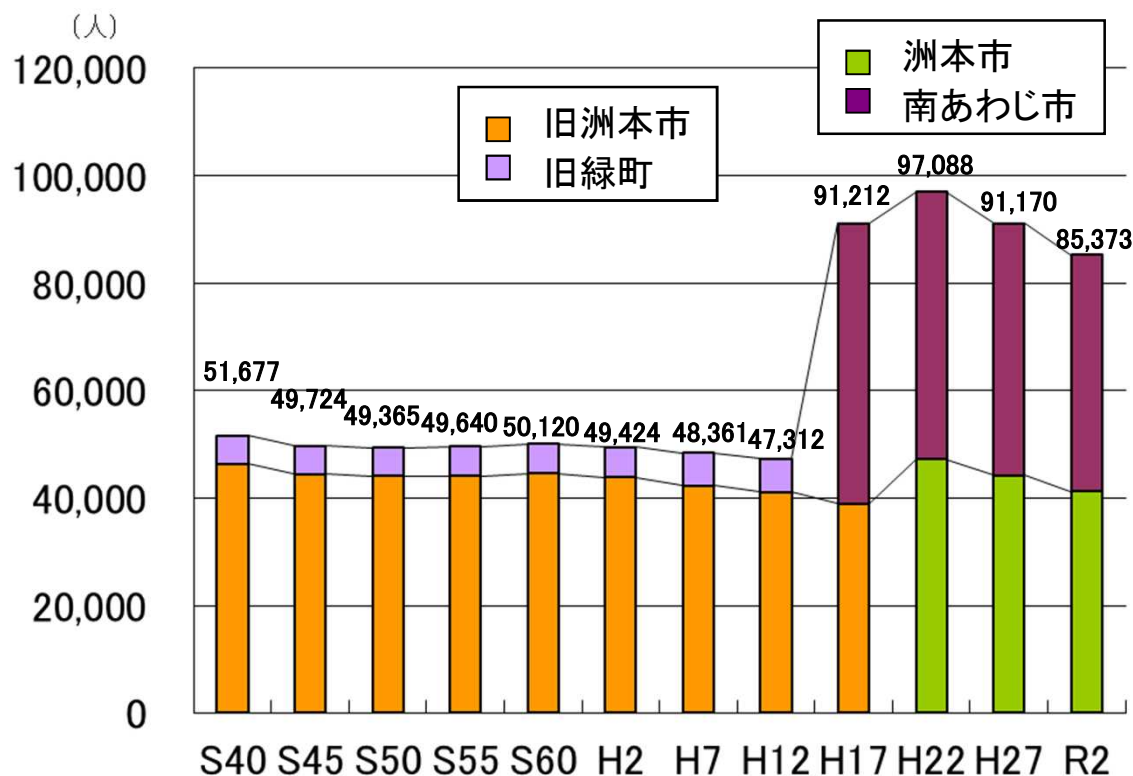
# ■ 河川の利用状況

- 内水面漁業権は設定されていない。
- 洲本川下流部には、潮止堰が設置されている。
- 河口付近で、近隣の高校のボート部等が練習を行っている。



# ■人口および産業・経済

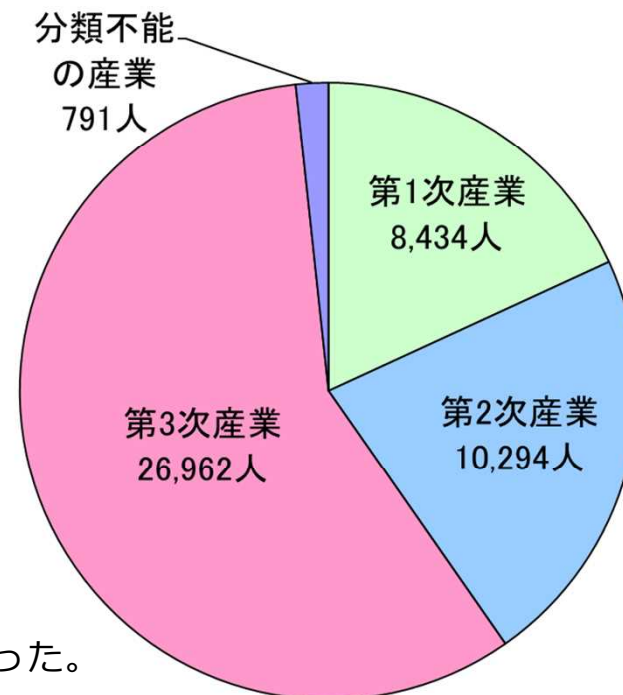
- 近年、人口は減少傾向にある。
- 就業者数は、第3次産業が最も多くなっている。



第1次産業：農業,林業,漁業,鉱業など

第2次産業：製造業,建設業など

第3次産業：小売,サービス業など



注) H17年に緑町は南淡町、三原町、西淡町と合併して南あわじ市となった。

H17年以降は南あわじ市の人口。

H18年に洲本市は五色町と合併し、H18年以降は旧五色町の人口を含む。産業分類別就業者数(R2)

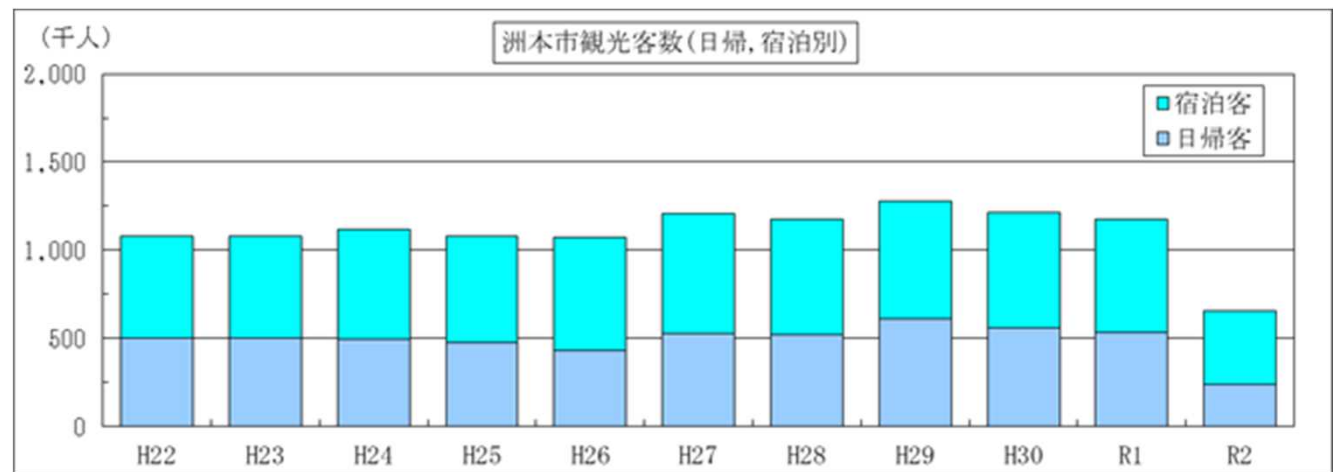
出典：国勢調査

洲本市・南あわじ市の人口の経年変化



# ■ 観光

- 観光客数は、年間100万人強 (R2年度を除く)。
- 近年は宿泊客が約5割を占める。



## 鮎屋の滝



## 赤レンガ建物群



写真：洲本市ホームページ、兵庫県公式観光サイトより



# ■ 歴史・文化

## 武山遺跡

縄文前期から営まれた、洲本の稲作発祥の地

## 下内膳遺跡

大地震や大洪水の痕跡が残る島内最大の遺跡

## 下加茂岡古墳群

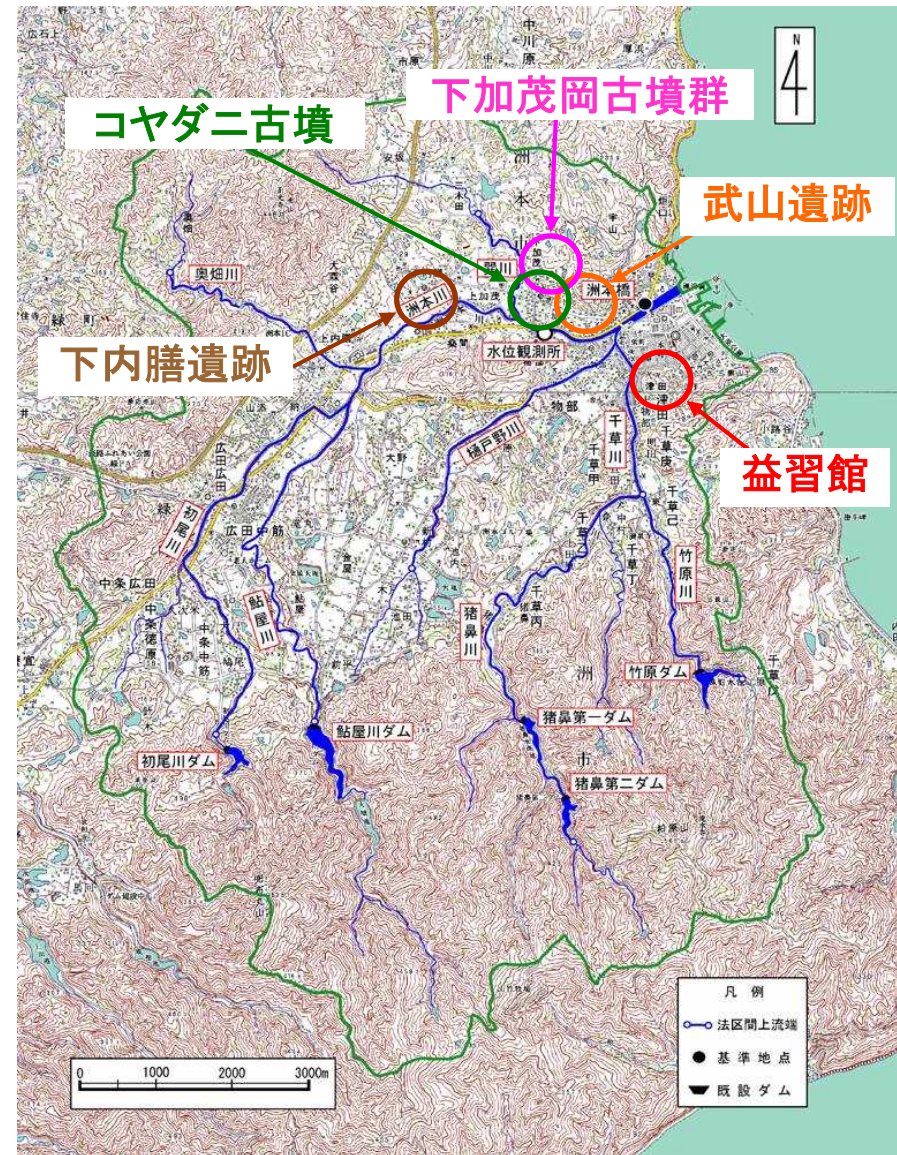
淡路島では産出しない緑泥片岩の箱式棺が使われている。

## コヤダニ古墳

権威の象徴、三角縁神獣鏡が出土した。

## 益習館

稲田氏が開設し、広く門戸を開放して文武両道の修練を行った。



## ■ 関連計画

- 洲本川の河川整備計画策定に際し、考慮すべき関連計画として、以下のものがあります。
  - ① 兵庫県国土利用計画
  - ② 淡路地域都市計画区域マスタープラン
  - ③ 新洲本市総合計画
  - ④ 洲本市国土利用計画
  - ⑤ 洲本市都市計画マスタープラン
  - ⑥ 第2次南あわじ市総合計画
  - ⑦ 南あわじ市国土利用計画
  - ⑧ 南あわじ市都市計画マスタープラン
  - ⑨ 兵庫県環境基本計画
  - ⑩ ひょうご・人と自然の川づくり